

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度 第2回雇用推進事業者選定審査会
開 催 日 時	令和7年(2025年)12月23日(火) 13時00分から 16時30分まで
開 催 場 所	枚方市役所第3分館(旧市民会館)3階 第4会議室
出 席 者	中原委員(会長)、芦田委員(副会長)、小中原委員、中島委員、 畑中委員
欠 席 者	—
案 件 名	(1) 事業者の応募状況について (2) 参加資格審査について (3) プレゼンテーションについて (4) 採点について (5) その他
提出された資料等の 名 称	資料7 申請団体一覧 資料8 参加資格について 資料9 採点表 資料10 評価コメント記入用紙 資料11 令和8・9年度市内企業若者雇用推進事業委託契約予定事業者募集 に係る質疑・回答
決 定 事 項	・各申請団体の採点表及び評価コメントを令和8年1月5日(月)17時ま でに事務局に提出する。 ・講評(案)については、事務局にて取りまとめ令和8年1月19日開催 の令和7年度第3回雇用推進事業者選定審査会に提出する。
会議の公開、非公開の 別及び非公開の理由	非公開 枚方市情報公開条例第5条第1項第6号に規定する「情報の公開をしない ことができる情報」に該当する内容について審議するため
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	本審査会の答申後に公表
傍 聴 者 の 数	—
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	観光にぎわい部 商工振興課

## 審議内容

### 【会長】

ただ今より令和7年度第2回雇用推進事業者選定審査会を開会します。まず、委員の出席状況及び本日の進め方等について、事務局から説明をお願いします。

### 【事務局】

本日は委員5名全員の御出席をいただいております。枚方市附属機関条例第5条第2項の規定により、本審査会が成立することを報告させていただきます。次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。次第のほか、資料7「申請団体一覧」、資料8「参加資格」について、資料9「採点表」、資料10「評価コメント記入用紙」、資料11「令和8・9年度市内企業若者雇用推進事業委託契約予定事業者募集に係る質疑・回答」参考資料とし、参考資料1「プレゼンテーション進行表」、参考資料2「審査・採点の方法、考え方に係る補足説明資料」、参考資料3「採点メモ」、そのほか、事前にお渡しさせていただきました業務提案書一式でございます。また、前回の審査会において、募集要項を一部修正しておりますので、修正後の募集要項及び仕様書も本日お配りしております。書類の過不足等はありませんでしょうか。本日は、事業者の応募状況についてご報告させていただいた上で、参加資格審査、申請団体のプレゼンテーション、また、採点に関する確認等、必要な審議を行っていただく予定としております。説明は以上でございます。

### 【会長】

ただいまの説明について、委員の皆様から何かご意見、ご質問はありませんか。

<意見等なし>

### 【会長】

それでは、本日の案件について事務局より説明をお願いします。

### 【事務局】

それでは、事務局からご説明いたします。

まず、案件(1)「事業者の応募状況について」ですが、資料7「申請団体一覧」をご覧ください。本事業の募集に対し、4者から参加表明書及び業務提案書の提出がございました。本日は、これら4者の提案内容について、ご審査いただく予定としております。

続きまして、案件(2)「参加資格審査について」ですが、資料8「参加資格について」をご覧ください。提出された参加資格確認書類を基に、事務局において確認を行いました結果、いずれの団体も参加資格を満たしていることを確認しております。

次に、案件(3)「プレゼンテーション」について、進行の流れをご説明いたします。参考資料1「プレゼンテーション進行表」をご覧ください。この後、採点方法についてご説明したのち、13時10分より申請団体1のプレゼンテーションを開始いたします。各団体につき、説明時間：最大20分、質疑応答：20分程度を想定しております。質疑終了後は、申請団体に一度ご退出いただき、休憩を挟んだ後、次の団体のプレゼンテーションを行います。

開始予定時刻は、「申請団体 2 が 13 時 55 分」「申請団体 3 が 14 時 45 分」「申請団体 4 が 15 時 30 分」となっております。申請団体 4 の質疑終了後、採点に関する確認事項等をご審議いただき、本日の審査会は 16 時 30 分終了予定としております。

続きまして、採点方法についてご説明いたします。参考資料 2 「審査・採点の方法、考え方に係る補足説明資料」をご覧ください。まず、「審査の流れ」についてですが、申請団体から提出された業務提案書及び本日のプレゼンテーションの内容が、各審査項目を満たしているかを審査いただき、資料 9 「採点表」及び資料 10 「評価コメント記入用紙」にご記入の上、期日までに事務局へご提出をお願いいたします。事務局で取りまとめた結果を、次回の第 3 回審査会においてご確認いただき、最優秀提案者及び優秀提案者を決定していただく予定です。次に「審査方法」につきましても、採点は各審査項目について配点内で評価いただく方式とし、評価基準は「1 が著しく不良」「3 が標準」「5 が特に優良」の 5 段階評価となっております。各審査内容について評価いただき、項目ごとに合算の上、採点表の採点結果欄へご記入ください。なお、参考資料 3 としてお配りしている「採点メモ」は提出の必要はございませんので、必要に応じてご活用ください。次に「委託料」について、ご説明いたします。委託料総額が最も低い団体を満点の 15 点とし、他の団体については最低価格との差に応じて減点する方法で得点化しております。こちらの点数は、事務局にて算定・記入しております。最後に、資料 10 「評価コメント記入用紙」について、ご説明いたします。こちらは、各申請団体について、「良かった点」「改善が必要と感じた点」「今後期待する点」などをご記入いただくためのものです。申請団体ごとに用紙を用意しておりますので、それぞれご記入をお願いいたします。最終的には、委員 5 名の採点結果の合計点とあわせて、各委員にご記入いただいた評価コメントを整理し、公表していく予定としております。

本日のプレゼンテーションでは、業務提案書からは読み取りにくい点や、確認しておきたい事項などについて、委員の皆様から積極的にご質問をいただければと考えております。事務局からの説明は以上でございます。

<質問等なし>

【会長】

ただいまの事務局からの説明に対して、委員の皆様からご意見、ご質問はありませんか。

<質問等なし>

【会長】

本日は、限られた時間の中で 4 者の提案審査を行います。質疑については要点を絞って、進めていきたいと思っておりますので、委員の皆様にはご協力をお願いします。それでは、準備がよければプレゼンテーションを実施したいと思っておりますので、申請団体の誘導をお願いします。

(申請団体 1 入室・準備)

【事務局】

それでは、ただ今よりプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは、はじめに団体名、出席者及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べ、「説明を開始します」と告げてから始めてください。プレゼンテーションの時間は20分です。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の時間になり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き20分程度の質疑応答の時間になりますので、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。準備はよろしいでしょうか。それでは、始めてください。

<申請団体1説明>

**【会長】**

ありがとうございました。それではただ今のプレゼンテーションに関して、委員の皆様、ご質問やご意見がある方は挙手をお願いいたします。

**【委員】**

動画CMはイベント自体の告知なのでしょうか。

**【申請団体1】**

不器用ファクトリーの認知拡大を図るところを考えておりますので、個別の日程を入れるのではなく、繰り返し使えるようなCM動画にできればと考えております。

**【委員】**

映画となると対象者がとても限定されるように思うのですが。

**【申請団体1】**

弊社の提携会社によりますと、上映映画は半年程前に決まるらしいのですが、映画によって対象とする観客の世代や性別、グループというのが色々あり、その中で一番いいターゲットとして狙えそうな対象層の映画を選びながら、対応させていただけたらと思っております。

**【会長】**

今のご質問に関連して、料金について気になりました。CMが30秒とおっしゃっていましたが、個別の映画館の具体的な金額までは分かりませんが、相場から見ると見積書の金額がかなり安いのではと思いましたが。この金額の根拠をお聞きできますか。

**【申請団体1】**

こちらは提携会社から提示された見積金額で計算させていただいております。私達が直接やり取りをするのではなく提携会社に一任しております、そこが映画館と協議した金額の

設定になっているとのことですので、お見積通りの金額でさせていただきます。

**【会長】**

そうした提携会社を通すことで通常より安価ということですね。

**【申請団体1】**

おそらくそうだと思います。私達もこの価格ですので、3回できるというところです。

**【会長】**

そうですね。逆に本当にこの金額だったら確かにありかなと思いますけど、普通はもっと高いはずなのでそこが気になったので。分かりました。

**【申請団体1】**

なお、対象は1作品だけになります。対象の時期に上映される、ある作品を指定するという金額になっていますので、全スクリーンで放映するわけではありません。作品Aであれば、作品Aだけとなります。

**【会長】**

この映画館の選んだ作品で、2週間の間に計3回分ということですか。人気作だと1日に何度も上映しますが、その2週間の間は全てから選べるということですか。

**【申請団体1】**

作品を選べる設定になっております。

**【委員】**

どの作品がどういった年代向けなのかというところで選んでいくのでしょうか。

**【申請団体1】**

おっしゃるとおりです。

**【会長】**

相場を見る限りでは、どの作品を選んでもこの予算でいけるというのは、かなり安価なように思います。

**【申請団体1】**

私達も初めて取り組ませていただくツールですので、どこが適正価格というのは難しいところですが、考慮された設定になっているとは思いますが。

**【委員】**

ワークライフバランスで心地よい職場など、求職者が重視したい点を中心に事業を組み立てられていると思います。一方で、枚方市の中小企業や製造業では、ワークライフバランス等の条件面ですごく良いところもあればそうでもないところもあります。実際の仕事では厳しかったり、もっと若者に厳しさも分かってもらわなければいけないというところで、逆に企業からすると、条件面ではない魅力を伝えていきたいという企業もあると思います。そういう面で、中小企業や製造業が魅力を発信していく、そしてマッチングしていくといった視点においては、どのようなお考えをお持ちなのでしょうか。

**【申請団体1】**

今回は枚方市の中小企業様ということで、募集広告を学生向けにする等かなり意識した点ではあります。一方で、中小企業様の魅力となりますと、社内で働いている方の魅力や事業の魅力など色々なパターンがあると思いますが、その入り口として、今回は人の価値観というところで始めさせていただきました。簡単などころから入ってもらって、先程のそれぞれの魅力というところに繋がっていければと考えております。入り口を低くしたと言いますか、最初から興味がある方であればすぐに事業の魅力などを見るとありますが、そこまでいかな方も取り入れながら、最終的には事業の魅力に辿り着ければと思っております。

**【委員】**

学生などに入りやすい入り口にしておいて、そこから魅力を発信していくことに繋がっていくというイメージですか。

**【申請団体1】**

はい。

**【会長】**

今のご質問に関連して、内容を拝見する限りでは偏りがあるように感じた点が気になっています。特に以前やっていたものでは、それぞれ各社の商品について考えるといった、かなり製造業の魅力というものを共有できる内容だったと思うのですが、今回、生活編も仕事編もほぼその入り口だけで、最終的には製造業の魅力につなげるとおっしゃっていた部分は、いつ、どのように達成されるというイメージでの構成なのでしょうか。

**【申請団体1】**

実はそこは悩んだポイントになります。前回実施したワーク自体には自信があったのですが、学生募集に少し苦戦したというのが本音です。あれから更に大手志向であったり早期化が進んできた現状に加えて、製造業がすごく人気があるかと言うと難しい部分が多少あると

思っておりますので、まずは多くの人を集めるというところを軸にして考えさせていただいたというのが、今回のワークです。おっしゃって下さったように、本来なら最初から製造業の魅力を発信できるようなものにしたかったところではありますが、前回のパターンよりは今回のパターンの方が集客ができるのではと考えております。集客の人数が少なければ可能かとも思いましたが、やはり集客目標が30名とありましたので、その目標数を目指すためには、できるだけハードルを下げながら、まずは、参加してみたいと思ってもらえるイベントの作りに変えていくべきではということで、今回のワークにさせていただきました。

#### 【会長】

この仕事内容や企業説明についての1社4分程のインタビューの中では、多少は仕事内容が出てくる流れでは進めるのでしょうか。

#### 【申請団体1】

はい。企業様の紹介は絶対に入りたいと思っております。そうして企業様のことも分かってもらいつつ、一緒になってやることで、その人の人柄や価値観に好感を抱いてもらったり、そういった魅力を発揮できることもあるのではと考えております。

#### 【委員】

このワークライフバランスをやっていくにあたって、例えば生活編のところ、昼食や社内イベントをどうするかというヒアリングをしてもらおうとありますが、その時に、中小企業にはどちらが正解なのかが分からないわけです。社内イベントはたくさんあって皆で楽しんでやっていると答えた方がいいのか、自由参加であり無という方がいいのか、その回答が良い方、悪い方どちらに転ぶかが分からない中で取り組んで、果たして、学生が思うワークライフバランスを満たせる会社と分かるのかどうなのか。悪い方になる可能性の方が高いこともあると思いますので、これをやる前にまずは参加企業に、今の一般的な状況というのを分かってもらった方がまだ分かりやすいような気がします。先程ご意見にあったように、ワークライフバランスとは別に企業の魅力を分かってもらいたいですし、そもそも、中小企業の経営者達と学生のワークライフバランスという言葉の捉え方は違うのではと思っています。私としては、仕事とライフ、ここには相関関係があることですから、どちらかだけが楽しかったり苦しかったりするものではないということ、共有できるのが一番いいのではと思いました。そういうワークショップができたとしてもいいと思うのと、私の会社であれば楽しんで働いたり、やりがいを持って働いてもらいたいと思うのは正直なところで、そういうところも併せながら、どうやっていけるのかというのがすごく大事なのではと思いました。可能かどうかは別として、学生がどういうことを求めるのかを参加企業に理解してもらい、そういうステップが一度あった方がいいかと思えます。

#### 【申請団体1】

おっしゃる通りだと思います。広報をさせていただく時は、実際に確定したタイミングでそれぞれ個別でフォローさせていただけたらと思います。

**【委員】**

映画館の話に戻りますが、チラシの配布というのは配架するということですか。配るのでしょうか。

**【申請団体1】**

映画館で入場の際にチケット確認がありますが、そこでチラシを配るイメージです。設定した枚数を、なくなるまでずっと配ってくれるサービスになっています。ラックに配架するとなかなか見てもらえませんが、直接お渡しするサービスになっています。こちらも作品は指定になります。CMとは違う作品に変えてもいいと思いますし、1年目は放映が間に合いませんので、2年目に取り組む時には両方試してみるのもいいかと思います。

**【委員】**

「企業募集活動について」という中で、どの事業に関しても応募スケジュールとしては、申込締切はイベントの約1か月から1か月半前となっていますが、面接会のための求人募集も、出展企業の決定からその後の求人受理も含めて、その期間でできるということなのでしょうか。

**【申請団体1】**

企業様には2か月程前にイベント開催のご案内をさせていただきまして、一旦企業様が決まるのが1ヶ月程前を想定しています。そこから決定した企業様とやり取りをさせていただき、求人票等を作成していけると考えております。広報については、企業様が決まり次第HPに挙げさせていただき、公表させていただきたいと考えております。

**【委員】**

求人の内容を詳しく見れるのは面接会当日になるのでしょうか。

**【申請団体1】**

企業様とのやり取りが速やかに進めば、2週間前には企業様の求人情報を掲載させていただくことは可能かと思います。

**【委員】**

インターネットで見れるということですか。

**【申請団体1】**

インターネット上で公開させていただきます。

**【会長】**

映画館でのチラシ配布に関してもう1点確認ですが、先程のご説明ですと、この見積書の金額というのは、チラシの作成と映画館スタッフによる個別配布も込みでの金額ということですか。

**【申請団体1】**

おっしゃる通りです。

**【会長】**

それと、募集要項の採点基準との兼ね合いで念のための確認ですが、記載されている目標数値について、達成できる実績があるかという点については資料のどこかに書かれていますか。

**【申請団体1】**

詳細まで記載できておらず申し訳ありません。実績で言いますと、前回の令和4・5年度の実績に近い形になります。

**【会長】**

分かりました。記載のあるものからしか採点できませんので、確認させていただきました。

**【委員】**

今回、合同面接会の開催場所が総合文化センター別館という枚方市内でされますが、今の実績からいって、この場所でできそうだという認識でよろしいでしょうか。

**【申請団体1】**

頑張りたいと思います。

**【会長】**

他にはよろしいでしょうか。それでは時間となりましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。ありがとうございました。

(申請団体1 退出)

(申請団体2 入室・準備)

**【事務局】**

それでは、ただ今よりプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは、はじめに団体名、出席者及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べ、「説明を開始します」と告げてから始めてください。プレゼンテーションの時間は20分です。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の時間になり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き20分程度の質疑応答の時間になりますので、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。準備はよろしいでしょうか。それでは、始めてください。

#### 【申請団体2】

#### <申請団体2説明>

#### 【会長】

ありがとうございました。それではただ今のプレゼンテーションに関して、委員の皆様、ご質問やご意見がある方は挙手をお願いいたします。

#### 【委員】

2点ありまして、まず1点目です。広報の手段についてとても多く記載されており、色々やっていただけるようですが、若者に対する広報の難しさは日頃から我々も感じているところです。これまでもよく使っているチラシ配布やHPへの掲載も、イベントへの参加にはなかなか繋がらないところがあります。その辺りを多くされますが、結局、網羅的にしないと集まらないのか、それとも若者への周知として効果があるから、ここに重点を置いているというような考え方が何かあるのか、お伺いできますか。そしてもう1点、地域連携会議ということで、各関係機関等と会議を持つこともできるというお話について、例えば広報等の色々な部分で連携に繋がっていくというイメージはできたのですが、どういうことをやって連携先としっかり繋がった結果、どのような効果が出るのかについて具体的なお話があればお聞きしたいです。

#### 【申請団体2】

まず一つ目の、私達をご提案させていただいた周知の方法についてです。HPは必ず設置させていただくべきものだと考えております。そこに全ての情報があり、そこに入って来ていただいてエントリーいただく等の仕組みを作ります。そこへ誘導するための仕組みとしまして、絶対に外せないものがWEB広告です。WEB広告のリンクからランディングページに飛んでサイト内に入っていただき、興味関心のある方はその先へ進んでいくといった流れができると思いますので、WEB広告とHPの連携は必ずやらせていただこうと思っております。ただ、こういうマスの広告というのは、なかなか一気に効果が出るものではないという部分もあります。ですので、足で稼ぐ部分である、学校のキャリアセンターとしっかり連携していきながら進めていければと思っております。例えば、他市様の事業でUIJターン事業というのをやらせていただいております。その市への就業促進を学生に遡及していくという事業で

すが、大きな大学に対してとなると難しいところがあります。ですが、中堅以下の大学になってきますと、キャリアセンターの中に就職相談に来ている学生で、就職に困っていたり上手く進んでいない方の情報がありますので、そういった方を誘導していくといったところで、連携しながら進めていければと考えています。これはかなり効果がありまして、例えばある大学では、その事業の中で25名程の方にエントリーいただいて、そこから1人就業につながりました。それ以外の方については、就労支援を行っています。希望する事業所・企業・業界に向けたエントリーシートの作成方法や面接対策等でお助けしながら、就職活動を支援するという流れを作ります。そういったところをしっかりとやっていけたらと思っております。特に枚方市には、関西外国語大学、大阪工業大学、摂南大学もありますし、市内ではありませんが摂南大学にはものづくりの学部がありますので、そういったところと連携できればと思っております。地域の連携というのも先程申し上げたところと、加えて言いますと、ハローワーク様、それから高等職業技術専門校様との連携もしっかり図っていきたいなと思っております。ハローワーク様の求職者の中には、支援を進めている若者もたくさんいらっしゃると思いますので、そういった方々にこのイベントを告知していただいて、イベント会場まで一緒に来ていただいたりもできるのではと思っております。そういったところを上手くやっていければと考えております。以上です。

#### 【委員】

広報の部分で言うと、おっしゃっていただいたように、学生に向けてはとても強みがあるというのはよく分りましたが、35歳以下というところで、転職者への広報に関して独自の強み等がありますか。

#### 【申請団体2】

転職の方に対しては、私達は2000年代前半から職業訓練の事業をたくさん受託させていただいて運営しておりました。民間が受託させていただいている職業訓練校様に、こういった事業の情報を提供させていただいたり等しながら連携できればと思っております。もう一つ、大阪府内に設置されております高等職業技術専門校様がありますので、そちらにも情報提供を行いながら運営できればと思っております。あと、年齢層が高くなる傾向にはありますが、中には若い方もいらっしゃいますので、産業雇用安定センターにも情報提供をしながら連携していければと思っております。

#### 【委員】

枚方市の有効求人倍率の記載がありますが、おそらく出典はハローワーク枚方のものと思います。ハローワーク枚方のデータは、枚方市に限らず寝屋川市・交野市も含む内容という認識でよろしいでしょうか。

#### 【申請団体2】

おっしゃるとおりです。

**【委員】**

それから、面接会の目的として「魅力ある職場作りを進める地域の中小企業に関する若年の理解を深め～」とありますが、誰が何を深めるのでしょうか。

**【申請団体2】**

中小企業様の場合は経営者層の方になられると思いますが、企業の採用担当者様に昨今の若者の考え方や行動パターンといったことについて、弊社のコーディネーターがしっかりとご説明をさせていただき、その辺りの理解を深めていただいた上で、ブースの設置や企業説明といったところをやっていただきたいという意図で記載させていただきました。

**【委員】**

出展企業の求人内容の公開は面接会当日でしょうか。もしくは、事前に確認できるのでしょうか。

**【申請団体2】**

これはご相談になるかと思いますが、冊子を作ったの公開か、HP上で概要だけの掲載になるかと思いますが、両方でもいいかとも思いますが、情報に不備あると問題が起こることもあり得ますので、その辺りは慎重に行いたいと思っております。当然、掲載いただく企業様の情報は、企業様および枚方市様にもチェック・確認をしていただいた上で掲示していきたいと思っております。事前にパンフレット等が設置できれば一番いいのではと思っています。

**【委員】**

合同面接会の実施時期が8月、10月、1月と書いてありますが、それぞれこの月に設定した理由を教えてください。

**【申請団体2】**

パターンとしまして、春先は就活フェアのような様々な民間が実施するイベントと、そこへ参加される学生が多いかと思えます。8月頃になりますと、ある一定の成果が出たり、上手いかなかったりといった差が出てくる時期で、かつ、夏季休暇にもなりますので、その時期で1本目をスタートさせていただきます。そして、本来最後は2月にさせていただきたいところなのですが、就職の確認の調査等を進めていく関係で1月にさせていただきました。その中間として10月になります。11月でもいいと思えますが、8月からの流れの中で、就職活動が上手くいっていない方に対しての訴求をしっかりと行いつつ、先程も申し上げたように足で稼ぎながら、そこに人を誘導していきたいと思っております。

**【委員】**

2月でもとおっしゃる程の遅い時期に実施して、人が集まるのかどうかについて少し不安があるのですが、今までの実績としてどれくらい人が来られていたのかを教えてください。

**【申請団体2】**

1月開催の場合の対象者については、若年ではなく中高年層というイベントを担当させていただくケースが多かったのですが、例えば昨年度の実施事業では約200名でした。昨年度、全国的に実施したこうしたイベントでは参加者がかなり減ってきていたのですが、1月に実施したイベントについては上手くいきました。他の場所で若年層に向けて実施した事業も、120名弱までは集まりました。

**【会長】**

今のお話に関連して、私も8月、10月、1月の開催が気になったのと、同じように、業界研究の方が7月、9月、12月に設定いただいているので、その辺の戦略を具体的に教えてください。

**【申請団体2】**

合同企業説明会・合同面接会の前月にそうした研究会等をやらせていただいて、そこにエントリーいただいた方に合同企業説明会の情報を提供して誘導するという流れで、それぞれ1ヶ月前と設定させていただきました。ですので、面接会の時期がずれるのであれば、その前になるよう合わせて変更させていただければと思います。

**【委員】**

業界研究会を取ってオンラインにしている理由を教えてください。

**【申請団体2】**

最近の若い方は、実際の集合型よりもこうしたWEBでの開催の方を好まれるためです。

**【委員】**

参加者側に合わせたところ、オンラインになったということですね。

**【申請団体2】**

はい。まずは集客をして情報提供をできる環境を作っていないと、全ての母集団が小さくなってしまいますので。

**【会長】**

なお、若い方が来やすいというところでオンラインで開催して、その後の面接会への参加

や採用に繋がっていくというのは、実績としてお示しいただけるものはありますか。

**【申請団体2】**

実績で申し上げますと、最初の方に記載しております「若年者地域連携事業」というのが、各労働局単位で企画させていただいている、いわゆるジョブカフェという厚生労働省の事業になります。ただし、これは相談事業ではなく、セミナー等をしっかりとやりながら若者の求職者の情報を集めて、その方々が就労に至ったかを調査して報告する事業になっています。その中に、必ず実施するイベントとして合同説明会も入っているのですが、その前に、PCセミナー等も含めたWEBセミナーを色々と開催します。その中で各個人の情報を収集しつつ、その方々に対して合同説明会の情報を提供させていただくという形で進めていきます。だいたい年に1回、上手くいかなかったらもう1回実施するというようにやっていますが、その際の目標の集客数は大体100名以上になっています。昨今はなかなか上手くいかず、80名程度になってしまうことが多いですが、そういった形で実施しています。

**【委員】**

業界研究会に関連して、オープンカンパニーのリアル開催についてお尋ねします。5・7・9・12月で、業界研究会と同じ形での開催になるのかと思うのですが、逆にこちらはリアルでやっていただくわけですが、これだけの回数をやって参加人数が集まるのでしょうか。

**【申請団体2】**

オープンで開催するイベントについて、集客がたくさん見込めるかという点には不安な部分もありまして、4~5名といった可能性もあるかとは思っております。そういう時は、マイクロバスを借りて何社か回る想定にしているところを、タクシーに変更する等して、希望者には随時その企業様を訪問してもらえよう環境を別で作らせていただければと思います。大きなイベントとして打ち出すには開催時期も決めて、その情報をオープンにしてやっていきたいと思っておりますが、最近の若年層の方々は、なかなか一斉に参加するという積極的な方が少なくなっていますので。

**【委員】**

業界研究会とオープンカンパニーに参加する企業は、同じ企業を想定していますか。

**【申請団体2】**

はい。そして最後は、合同企業説明会につながればと思っております。

**【会長】**

ありがとうございました。それでは時間となりましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。お疲れさまでした。

(申請団体2退出)

(申請団体3入室・準備)

**【事務局】**

それでは、ただ今よりプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは、はじめに団体名、出席者及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べ、「説明を開始します」と告げてから始めてください。プレゼンテーションの時間は20分です。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の時間になり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き20分程度の質疑応答の時間になりますので、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。準備はよろしいでしょうか。それでは、始めてください。

**【申請団体3】**

<申請団体3説明>

**【会長】**

ありがとうございました。それではただ今のプレゼンテーションに関して、委員の皆様、ご質問やご意見がある方は挙手をお願いいたします。

**【委員】**

求職者向けに、ITパスポートの試験対策講座というところにすごく力を入れておられます。なぜITパスポートかということも説明の中で詳しく教えていただいたのですが、最近ITというと、例えば高校生くらいから情報の講座があったり、大学でもかなりやっているとしますので、若い層になればなるほど情報やITの知識はかなり深まってきているのではと思います。どちらかと言えば中高年層やそれ以上の方に、リスクリングとしてITパスポートへのニーズがかなりあるのではと私は思っています。今回は対象者が若年層の学生となると、ある程度ITパスポートの知識レベルは持っておられる方も多いのではと想像される中で、求職者側に、ITパスポートをこういった講座で学びたいというニーズがどれくらいあるのかということをお聞きできますか。それから、製造業で必須と書いてありますが、製造業に限らずDXやITの知識はどの産業でも必要になってくると思いますが、製造業の側から、ITパスポートの取得について具体的なニーズがあるのかどうかという状況と、他市で実際にされたということですので、その事業ではこういった年齢層の方がITパスポートを受講されて、どのような業種の就職に繋がったのかを教えてください。

**【申請団体3】**

ITパスポートですが、求職者側のメリットとしましては、ITリテラシーを身に付けるというところはもちろんですが、今回の対象が若年層ということで、これから社会に出られる

方が多いところを想定しています。IT パスポートで学べることとして、財務・法務など一般的な社会人としての基礎力というところも養成できる講座になりますので、今回、就職活動でマッチングする前段階の時点で、しっかりとここの勉強をして、資格を取得した上で就職活動をするのが、採用される側である学生にとってのメリットとっております。企業としてのメリットについては、DX 人材がないという点について IT パスポートがそのままカバーできると思っておりますが、しっかりと国家資格の IT パスポートを取得したということ、そして社会人基礎力を持った上で応募してくるという応募者の土台を、この事業を通じて作りたいと思ひまして、IT パスポート講座を提案しております。それから、履行中の他市の事業ですが、現状で定員 500 名に対して 400 名強のお申込があります。年代の内訳は、特に若年層に絞ったものではなく、20 代、30 代から 50 代位だったと思いますが、割合としては、若者世代から年配まで幅広くかつ満遍なく受講いただいている構造になっております。事業を通じて国家資格の IT パスポートを取得し、就業に結び付けるというところまでがその事業の趣旨です。我々はその育成のところをメインで担当しており、マッチングについては、その市や関係機関との連携で就業に結び付けるという形になっています。

**【委員】**

就業先までのデータはまだ無いということですね。

**【申請団体 3】**

現時点ではありません。

**【委員】**

IT パスポートと企業とのマッチングというのが腑に落ちにくいのですが、IT パスポートを取りたいという求職者はたくさんおられるとは思いますが、そこの先に製造業で働くことがあるようには思えません。そこをどうマッチングさせるかということが企業の魅力発信というところだったと思ひますが、その企業の魅力発信の「魅力」の部分をどのように捉えられておられるのかお聞かせください。

**【申請団体 3】**

IT パスポートのスケジュールを元にご説明させていただきたいと思ひます。事業は 9 月から開始しますが、6 月頃からこの IT パスポート講座を始めたいと思ひています。IT パスポートを学んでいただいて就活に活かしてもらおうという目的はもちろん、この事業に注目を集めることを目指しております。無償で e ラーニングが受講できて国家試験対策までできるという母集団を早めに形成しておきたいと思ひしております。ここで集まるのは 200 名を想定しておりますが、全員が製造業に興味を持っているとはもちろん思ひておりません。この受講していただく期間の中で、製造業に興味を持っていただくための仕掛けをいくつか用意したいと思ひております。そこが求職者向け支援に記載しております、就職支援の部分になりま

す。期間中にセミナーを4回程させていただく予定ですが、製造業の業界研究や魅力発信といった内容のセミナーを開催させていただく予定です。他には、事業のポータルサイトを構築しますが、その中の今回この事業に賛同いただく企業様の専用ページに、企業様独自で企業情報・採用情報の更新であったり、先輩の声といった情報をこのサイトにどんどんアップしていただけるようなポータルサイトを、今回この事業の中で作りたいと思っております。セミナーを介して製造業のことを知っていただきつつ、同時にセミナーの中でこのポータルサイトを紹介して、枚方市内にはこんな企業があるということを密に入れ込んでいきながら、最後の合同企業説明会に結び付けていくというところをイメージしております。

#### 【委員】

おっしゃっていることはよく分かりますので、それが確実に成立すれば確かにいいと思います。ただ、それが非常に難しいと思っております。企業側の魅力発信というものを企業側に任せて独自にやってもらったとして、果たして中小企業がその魅力の発信をできるのかが一番の課題と思っております。ですので、そこを第三者等から見た方が、その企業が自分達では見つけられなかった魅力といったものが見つかることの方が多いのではと思っております。そうした魅力をこの事業の中で見つけることができるのかということ、また、どうやってそれを実現していくのだろうということが、とても気になっています。何か考えておられることはありますか。

#### 【申請団体3】

おっしゃる通り、企業任せにしてしまうと、おそらくサイトの更新もままならず、更新の仕方が分からないといったお声が多く生まれるのではないかと思っております。その中で、人材採用セミナーというものを年間を通じて今回企画しておりまして、いったんの仮案になりますが、このテーマは、基本的には採用から実際の面接を想定したセミナーを開催する予定です。先程のポータルサイトに掲載する情報も、いったん我々の方で作成した雛形をみていただいた上で各企業様から収集いたしまして、それをポータルサイトに反映させます。見た目やデザイン、構成等も企業様任せにはせず、我々のデザイナーも入った上で、見せ方等を工夫させていただきたいと思っております。

#### 【委員】

こちらに記載の「求人・求職バランスシート」はハローワーク枚方のデータをもとに反映されているかと思うのですが、ここには枚方市以外に寝屋川市、交野市も含んだ数字であるということは、共通認識ということでしょうか。

#### 【申請団体3】

はい。

**【委員】**

もう1点、「面接会等4回実施して就職者数30名以上」という形でKPIよりもかなり高い目標を持っていただいているかと思いますが、達成できるという根拠は何かありますか。

**【申請団体3】**

ここに、正社員目標30名以上で面接会延べ参加者予測の15%以上というところを書かせていただいているのですが、例えば、我々がこれまでやっている職業訓練であれば60%以上が就職している実績であったり、合同企業説明会に関しても、過去に実施した中では15%を超える実績を我々は保持しております。そうした実績の部分から達成できる数値であると考えております。

**【委員】**

合同面接会の開催場所についてですが、開催時期が8月、10月、12月、2月の年に4回あり、場所が枚方市のメセナホールと、その下にグランフロント大阪のカンファレンスルームと書かれています。4回ともそれぞれ2カ所で開催するのか、開催概要をもう一度教えてください。

**【申請団体3】**

今回、1年間で全4回実施の内、3回がメセナホール、1回がグランフロントを想定しております。この点については、ご採択いただけましたら協議の上で決定できればと思っておりますが、現時点での積算ではその認識です。

**【委員】**

周知・広報のところで、ハローワークを活用しようということですが、この例にあるチラシは実際に使用されたチラシでしょうか。

**【申請団体3】**

はい。

**【委員】**

その時も、eラーニングで無料で資格まで取得できるということ、併せてされたということですか。

**【申請団体3】**

はい。今回ご提案をさせていただいているような事業のスキームは、関西圏以外や首都圏でも同じく事業としてさせていただいている仕組みになります。

**【会長】**

重複になるかもしれませんが、達成目標 30 名以上というところに関して、IT パスポートを呼び水に広く浅く集めて、そして最終的な目標のこの 30 名を枚方市の製造業につなげていくということだと思いますが、どうつながるかのイメージがなかなか持てず、もう一度ご説明いただけますか。

**【申請団体 3】**

例えばこの求職者に向けた支援で言いますと、まず一番上に全体の参加目標を 200 名とさせていただきます。IT パスポートが最も早く募集を開始する支援内容になっておりますので、まず IT パスポート試験対策講座を学びながら就職ができるというところで、ここでまず 200 名以上を確保いたします。その次にキャリアコンサルティングや就職支援セミナーが 4 回あるのですが、ここはここで周知活動を行います。また、合同説明会にだけ参加される方も想定されますので、合同説明会だけでも広報は実施していきます。ですので、最初にこの 200 名程の IT パスポート受講者を集めつつ、加えてその後のセミナーや合同企業説明会独自の広報によって、おそらく最終的には 200 名以上の方がこの事業に何かしらの認知を持っていただける状態を作った上で、最終的な面接会に繋げていくというようなスキームを想定しております。

**【会長】**

そこから 30 名以上が就職に繋がるということをどうやって実現するのかを、もう一回ご説明をお願いします。

**【申請団体 3】**

具体的に確固たる数字ということではないのですが、我々がこれまで行ってきた合同企業説明会や委託事業の中でも、参加者割合からしておおよそ 15%程度は就職までつなげられている実績例がございますので、そこから考えた時に、想定する 200 名の説明会参加者の内、15%は達成できるであろう見込みとしてこの 30 名を算出しております。

**【会長】**

分かりました。なお、同様の世代に対して、この IT パスポートを使って集客から同じ流れで実施して、実際にこれだけの割合が就職したという実績は、現時点で他の事業ではあるのでしょうか。

**【申請団体 3】**

若年者を 35 歳未満に特化した事業の中ではありません。40 代、50 代までも含む事業であればあるのですが。

**【委員】**

あと、定着という部分のところで行きますと、DXの推進といったこともおっしゃっていたかと思いますが、新しく働きに来る若者がDXを推進してくれるというよりは、むしろ中間層の人達がやらないと進まないことがあります。そういう状況の中で、この若者達は、せつかくITパスポートも取得したからには、何かしら企業や製造業の中でやれることがあるのではないかと考えて就職してみたら、結果、何もそのスキルが使われないままずっと過ごすことになるということが、往々にしてあり得るのではないかと懸念されます。そうした中で定着という部分を考えて、そこに繋がるのかがすごく難しく、むしろ、逆に繋がらないのではと後悔してしまいました。定着しないのであれば、この30人はとてももったいないことになってしまいます。定着に向けての取組みについてはどのようにお考えですか。

**【申請団体3】**

定着支援ですが、このITパスポートを勉強していただいた方に、採用された後にどのように定着していただくのかについては、原則これは、企業向けの研修・指導員向けの研修として年2回の実施を考えております。いったん内定が出たからといって、その後を求職者や企業任せにするのではなく、こういったOJT担当者向けの研修やこれから働く内定者向けの研修を通じて、定着支援をサポートできたら思っております。

**【委員】**

そうですね。ITパスポートのレベルがどの程度のものなのかは、おそらく製造業の人には分かりませんので、ともすればITパスポートでできる以上のスキルのことを求めてしまう可能性があると思います。どこまでのことができるのかといったことを、企業に向けてもかなりフォローをしておかないといけないのではと思います。

**【会長】**

今の点に関連してですが、例えば、ITパスポート研修まで受けた流れの中で就職を決めた若者に向けて、そのスキルを入社後にどう活かしてもらえるかといったことは、どのように説明されるのでしょうか。企業向けのセミナーや研修の中で、その認識を共有してもらうための説明などをされるのでしょうか。実施されるのかは分かりませんが、もしされるとすれば、どのような説明の仕方になりますか。

**【申請団体3】**

ITパスポートを持っていることのメリットをどのように説明するかということですか。

**【会長】**

そこまでのスキルを身に付けて自社に入社してくれた新入社員に対して、そのスキルでど

ういうことをしてもらえるかという話が無ければ、この仕組みは活かされないのではと思うのですが。先程も話で出ていたように、むしろ構造上のミスマッチが生み出される可能性があるように思います。

#### 【委員】

持たされる武器が違うと言いますか、例えると、野球をやるのにバレーボールを持たされるというような状態になりかねないのではということです。

#### 【会長】

役に立つから受けているわけですから、そのスキルを持ってどこかに就職したとして、それが製造業であるにせよないにせよ、「IT パスポートを受講して得たスキルを持って入社してくれたからには、当社ではこういったことをしてもらえるといい」というような認識が最初から無いと、そこが全然活かされないことになるのではないのでしょうか。それを認識してもらうために、どのようなことを企業側にお伝えするのでしょうか。

#### 【申請団体3】

IT パスポートという名称だけを聞くと、ITのプロフェッショナルなのかというイメージを持たれることが多いのですが、実際の内容としては、パソコン周辺のインフラの知識はもちろんとして、それに加えて経理や財務、法務、総務といった会社経営に関する内容も広く汎用的な知識を学べるような講座になっております。社会人基礎力をしっかりと学んできているという状態までこの講座を通して育てたいと思っておりますので、就職活動をして入社してこられた方が、ちょっとした社会人基礎力がプラスされている状態を目指したいと思っております。

#### 【委員】

その点を企業側がすごく理解しておかないと、さっき言っていたミスマッチがすごく起こるような気がします。プロ野球選手レベルが来たという認識でプロ野球レベルの仕事を任せられた結果、実は草野球レベルにも満たなかったという状態が、お互いにとっても一番良くないと思います。やはり定着のところで言いますと、IT パスポートを企業側でどう活かすのかというのは、これを受ける側の人もそうですが、企業側にもすごく理解が必要なのではないでしょうか。そうしないと、今おっしゃった定着という部分が難しいように思いました。

#### 【会長】

実際、今、補足で説明していただいたような印象をすぐには受けませんでした。IT パスポートという名称もそうですし、DX 推進の時代というように書かれているわけですので。そうしますと、かなり印象が違ってきます。

**【委員】**

そのように書かれていると、おそらく企業としては、この資格を取得しているからにはDXができるように思うと思います。そう思われてしまうと、そこにミスマッチが生まれ、望ましくない結果につながるのではと懸念されますので、そこは十分注意された方がいいかもしれません。

**【申請団体3】**

確かに、ITパスポートの取得が、国家資格ですごく最先端のDX推進ができるように捉えられてしまうと、それは絶対に違うと思います。

**【会長】**

この資料を拝見すると、まずはそう捉えられる方はかなり多いのではと思います。

**【委員】**

そうですね。私もそうですが、製造業の方はおそらくそうなると思います。

**【会長】**

なお、ITパスポートの具体的な内容は資料の中に書いておられましたか。

**【申請団体3】**

記載してはいませんでしたので、先程の口頭でのご説明になります。

**【会長】**

ありがとうございます。それでは時間となりましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。申請団体の方は、ご退室ください。

(申請団体3退出)

(申請団体4入室・準備)

**【事務局】**

それでは、ただ今よりプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは、はじめに団体名、出席者及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べ、「説明を開始します」と告げてから始めてください。プレゼンテーションの時間は20分です。終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の時間になり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き20分程度の質疑応答の時間になりますので、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。準備はよろしいでしょうか。それでは、始めてください。

#### 【申請団体4】

##### <申請団体4説明>

#### 【会長】

ありがとうございました。それではただ今のプレゼンテーションに関して、委員の皆様、ご質問やご意見がある方は挙手をお願いいたします。

#### 【委員】

2点ご質問させていただきます。まず1点目です。参加企業の募集の中で、企業開拓スタッフによる新規企業の開拓を行うということですが、過去からこの事業をされていますが、企業開拓スタッフによる新規開拓をこれまでもされていたのかどうかということと、継続してそういったことをされるかどうかということ。また、これまで事業をされていてかなり企業の開拓は進んでいるかと思いますが、これから新たに企画するにあたって、どれくらいの新規開拓の目標や目途を考えておられますか。もう1点は、「ものづくり業界研究会」の中の専門機関との連携の中で、ワークショップなどを企画されている提案について、ポリテクセンター関西、北大阪高等職業技術専門学校ということですが、いずれも、どちらかと言うと職業訓練のための機関で学校に近い形態だと思います。学校ですから、入校者向けの見学会や実際やっている訓練を紹介をする機関であると思いますが、実際に企業に就職するということを想定するのであれば、どちらかと言うと、企業様にワークショップをやっていただいて、その業界や仕事を知っていただくような提案の方がいいのではないかと思います。敢えてこういった職業訓練機関によるワークショップをご提案された理由を教えてください。

#### 【申請団体4】

まず前者の企業開拓についてですが、事務局と当社の企業開拓員スタッフの配置は引き続き予定をしています。配置先につきましては、これまでの枚方市様の委託事業で得られたデータベースもありますので、そこへの案内はもちろん、あとは未開拓の求人サイトに載っているような企業も開拓いたします。主には企業団地にいらっしゃる企業様で、まだ本事業への参加に至っていない企業様が非常に親和性が高いと感じておりますので、こういった対象へのアプローチを実施していきたいと考えております。また、目標値につきましては、記載しています申込目標企業数の数は最低限確保した上で、それぞれの出展枠の数を抽選できる社数分の申込を、まずは頂戴したいと思っております。この申込目標企業数というのは、あくまでもミニマムのラインと理解しておりますので、それ以上の獲得を進めていきたいと思っております。また、当社の職業訓練校との連携ですが、例年7月に不器用ファクトリーで各企業様が実施されるワークショップがあるため、今回は、また別の形で実施することが変化を持たせる上で適切ではと考えております。ポリテクセンター関西様、大阪高等職業技術専門学校様にとっては、大学3年生以下の方を対象とした職業訓練というのは、本来であれば対象になりづらいとは思いますが、今回ものづくり業界への就職意欲を促進するためとい

うことで、ぜひ学校のような形で、短期で就業体験をできるようなプログラムを一緒にご提供いただけるとありがたいと感じています。

**【委員】**

市内ものづくり企業就職意欲向上のための取り組みのところで、記載されている体験例にはすべて「仮」と付いていますが、これは、特に具体的な提案があるわけではないということでしょうか。

**【申請団体4】**

我々が今回連携を進める中で、取組の実績のあるものを仮案ということで挙げさせていただいております。

**【委員】**

やろうと思えば、この「バーチャル溶接体験」というのはできる状況なんですか。

**【申請団体4】**

連携先の機関様の協力を得られれば実現可能かと思っております。

**【委員】**

令和6年度と7年度の面接会の実績を記載いただいておりますが、令和6年度の最終の就職決定者数が11名であって、今年度の10月分の結果はまだ出ていないということでしょうか。

**【申請団体4】**

はい。

**【委員】**

目標は達成できそうでしょうか。

**【申請団体4】**

令和6年度につきましては未達成という結果で終わってしまいました。しかしながら、令和7年度はモニタリング調査を経て、企画内容を変更して現在進行しているため、実利の方になんとか繋げたいと思っております。10月開催分の就職状況調査については、当時の来場総数で言うと2日間で約50名の来場がありましたので、この50名から何社の市内企業に採用されたかという調査を、翌1月から2月にかけて対象企業様に向けて行っていきたいと思っております。ここで何とか数字を伸ばしていきたいと考えております。

**【委員】**

それに対して、今回ご提案の次の2年間の目標はそれぞれ16名ずつということですので、これは、今年度の実績でいけば達成できそうかどうかということでしょうか。

**【申請団体4】**

おっしゃる通りです。令和6年度から7年度の運営経験や昨今の採用市場の状態も考慮しながら、今回の目標を設定させていただいております。端的に申し上げて、無理な目標値を掲げるつもりは一切ありませんので、必ず達成できる、そして、最大限この予算と事業規模の中でできる目標値を設定させていただいております。

**【委員】**

それから、不器用ファクトリーからも令和7年度は就職決定者を出されているということですか。

**【申請団体4】**

令和6年度に参加した3年生が、令和7年度に就職内定を得たという実績がありました。一番きれいなモデルケースと言いますか、就業体験に参加して企業のことを知り、実際に選考に進んだということで、学生をそこまで繋ぎとめるという企業側のグリップもできました。その結果、来年春の入社に至ったという実績が出ましたので、不器用ファクトリーの好事例の一つと感じております。

**【委員】**

大きいと思います。

**【委員】**

令和6年度でいきますと、10月以降の求職者の参加数が圧倒的に少ないというのを鑑みて、おそらく色々修正された上で、令和7年度の10月30日・31日の参加者数がずいぶん増えたのかと思っているのですが、前年度の結果をベースとして考えた上で、敢えて今回の10月を梅田センタービルで開催している理由を教えてください。

**【申請団体4】**

まずは市内企業と、市内企業を目指す求職者のマッチングの場を提供するというのが前提にはなります。新卒の方々の動きを見ると、現状12月でも29%の学生が既に内々定を得ており、次年度受託させていただいて運営することになった場合、おそらく4月のタイミングでは、既に60~70%の学生が内々定を得ているという状況になるかと思えます。ですので、まずは市内で行う際は、実施できる一番早期の段階の4月で実施をして、その新卒分の補填をするということも考慮して、10月に人口集中の多い梅田開催で、主に既卒以上の転職者を

メインのターゲット層として実施していきたいと考えています。

**【会長】**

合同面接会における企業と求職者のミスマッチを防ぐための工夫と、それから、就職後の定着に繋がる工夫についてもう一度教えてください。

**【申請団体4】**

今年度までも取り組ませていただきましたが、イベント会場で相互のマッチングをするにあたって、会場内で我々のスタッフが相談役として各企業様と求職者のコミュニケーションの間に立つようなコンシェルジュという役割を設けております。求職者がどんな企業を回ったのか、もしくは企業側がどんな求職者と面談をしたいかというところを、ヒアリングしてサポートする役割を持つコンシェルジュを配置しておりました。時間内に好きなブースを自由に回ってもらうという自由度の高いしつらえで運営するより、マッチング数を高めるためにそういう形での実施をさせていただきました。仕組みの部分で申し上げますと、参加者には、業界研究会を経て翌年度2年目で就職先に繋がる合同就職面接会に紐づくように、そのリードタイムの期間には何かしらの情報発信を行っていきたくと思います。データベース上で就職決定が出たもののご案内やイベントのご案内をシームレスに行うことで、就職先が見つからないタイミングまでこの事業がサポートできるというところまでを、認知を行っていきたくと考えております。

**【会長】**

就職後の定着に繋がる職場環境作りに対する工夫を教えてください。

**【申請団体4】**

こちらは企業側に向けた就職支援コンテンツにはなりますが、まずは合同企業面接会で各企業様が最大限のパフォーマンスを発揮いただくために、オンラインセミナーの実施を検討しております。学生の就業に関する価値観であったり、現在の動き方も今年度と次年度ではおそらく違うと思いますし、そのスピード感や量は異なると理解しております。ですので、適切な情報を各企業様に共有した上で、当日の面談に繋がることをお話します。面談をした上での採用や定着、採用された方が就職後に本来想定していたよりも高いパフォーマンスを発揮するためには何が必要なのかというところまでも、企業セミナーの中では触れていきたくと思っています。

**【委員】**

「市内ものづくり企業への就職意欲向上のための取り組み」について、7月に開催される理由を教えてください。

**【申請団体4】**

まずは学生の間接テストが7月中旬以降に始まりますので、7月上旬で実施するということがギリギリのラインかなと捉えています。タイミング、そして今後の設計の段階で、できれば6月下旬辺りに実施するのが一番いいかとは思いますが、7月上旬のギリギリのタイミングというところで、一つの指針として書かせていただいております。

**【委員】**

もう一点、この「就職意欲向上のための取り組みのイベント」を他の別の事業、要するに企業向けのオンラインセミナーや合同就職面接会など、他の事業に繋げていくという位置付けがあってこのタイミングになっているのでしょうか。それとも、学生向けのものだけになっているのでしょうか。

**【申請団体4】**

タイミングだけで申し上げますと、7月で実施する理由としては、学生の就業、学校のテストの兼ね合いでこのタイミングがベストだと判断しています。繋げていくストーリーで言いますと、翌年度2年目の4月の合同就職面接会に繋げて、まずは採用に結び付けたいというのが狙いではあります。その中で学生、求職者に対して支援できることは、この運営期間の中で検討してブラッシュアップしていきたいと思っております。

**【委員】**

そこに合わせるのであれば、期間が離れている点についてどう穴を埋めるのか、何か策があるのか教えてください。

**【申請団体4】**

企画書には落とし込めていませんが、これは基本的にオンラインになるかと思いますが、やはりセミナー関係で学生を繋ぎとめておくことです。オンラインであれば予算を追加せずに実施もできますし、これは対企業、学生双方にとっても同じ理由です。7月の開催から翌年4月の面接会に向けて実施するのであれば、最大で2回から3回程度かと思っております。おそらく学生にとっては、3か月クォーターごとにキャリアセンターから就職選考に関わる情報が発信されるタイミングがあると思いますので、可能であれば、そこに合わせてこの事業でもそういったセミナーを実施をしていくことも検討するべきかと思っております。

**【委員】**

「企業と大学の就職情報交流会 in 枚方」が次年度以降にも盛り込まれているということは、これはかなり効果があったということでしょうか。

**【申請団体4】**

満足度は非常に高かったです。課題で申し上げると、本来は10校開拓を目指して進行しましたが、結果9校になりました。この点については課題と捉えておりますが、実施後の全体満足度は非常に高く、企業様からも感謝の言葉をいただいたり、アンケートの相対的な評価も非常に高かったと思います。その理由としましては、ご希望された学校と時間内で最大限のお話しができた、話を聞いてもらえた、発信できたということが満足度に繋がったのではとっております。大学様も、想定した以上に市内企業と面談機会を設けることに好意的でした。これまでリレーションのなかった企業様、初めて企業名を知ったところと名刺交換ができて、訪問のアポイントも取れたというようなこともヒアリングできていますので、そういう意味ではとても有意義な企画かと思っております。

**【委員】**

大学側から大学生にも連携できているのでしょうか。

**【申請団体4】**

その後追いまではできていませんが、前提として大学様はそれを目的に参加していただいておりますので、必ずそういった動きを取られていると思います。

**【会長】**

ありがとうございます。それでは時間となりましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。申請団体の方は、ご退室ください。

(申請団体4退出)

**【会長】**

それでは、プレゼンテーションは以上となります。ここで事務局に対しご質問、または確認されたい事項等がありましたらお願いします。

<質問等なし>

**【会長】**

それでは、次に案件(4)「採点について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

採点の考え方につきましては、先ほどご説明させていただきましたとおり、審査項目ごとに配点の範囲内で採点をお願いいたします。採点表および評価コメントにつきましては、年明け1月5日(月)17時までに、事務局までご提出をお願いいたします。年末年始のお忙しい時期でのお願いとなり恐縮ではございますが、ご協力のほど、よろしくをお願いいたします。なお、採点や評価コメントのご記入にあたり、関係資料が必要な場合は、お持ち帰りいただいで差し支えございません。その際、各申請団体の業務提案書につきましては、大変申

し訳ございませんが、次回の第3回審査会の際に再度お持ちいただき、事務局へご返却くださいますようお願いいたします。既にご記入を終えられた資料がございましたら、お帰りの際に事務局へご提出いただければ幸いです。また、採点表および評価コメントの記入にあたり、エクセル形式またはワード形式のデータが必要な場合は事務局までお申し出ください。この後、メールにてお送りさせていただきます。皆さまからご提出いただいた採点表・評価コメントは、事務局にて取りまとめの上、次回の「第3回審査会」において、採点結果の集計および評価コメント（案）をご提示させていただく予定としております。

事務局からの説明は以上でございます。

**【会長】**

ただいまの説明に対して、委員の皆さんからご質問、ご意見等はありませんか。

<質問等なし>

**【会長】**

続きまして、案件(5)「その他」について、事務局から何かありますか。

**【事務局】**

はい、事務局から1点ご連絡いたします。次回の審査会につきましては、1月19日(月)14時から、本日より同じフロアの第1会議室にて開催を予定しております。開催の詳細につきましては、改めて事務局よりご案内させていただきますので、ご確認のほど、よろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

**【会長】**

それでは、本日の案件はすべて終了しました。以上をもちまして、令和7年度第2回雇用推進事業者選定審査会を閉会します。長時間に亘りありがとうございました。

以上